

# 宇和島市立津島中学校 研究報告

## 1 取組の内容

中学校を主体とした研究を推進するに当たり、校区の小・中学校並びに高等学校における児童・生徒の実態を知るため、各学校で英語授業における学習状況等についてのアンケートを実施し、その分析を行った。

その結果を基に、児童・生徒の英語学習に対するニーズを把握し、中学校におけるコミュニケーション能力の基礎を育てる指導方法についての研究を行った。

また、小・中・高の連携を深めるために、授業研究及び研究協議をそれぞれの学校で実施し、研究推進の方向性や互いの指導方法、課題等について話し合った。

### (1) アンケートの実施及び分析

児童・生徒の実態を把握するため、小学6年生、中学3年生、高校1年生を対象に中学校が作成したアンケートを実施した。

それぞれの学校でのアンケート結果を集計し、児童・生徒の実態を把握した。

### (2) 小学校・高等学校との連携

小学校・高等学校で研究授業を行い、児童・生徒の活動の様子を見た。その後、研究協議を行い、それぞれの学校の取組や実践発表、意見交換などを行い、各校の連携を深めた。

研究協議では、各学校の実態に応じたコミュニケーション能力育成についての取組を紹介し合い、各校のつながりを大切にして授業をしていくことの必要性を改めて確認した。

### (3) コミュニケーションの力を伸ばすための学習内容・指導方法等の工夫・改善

英語でコミュニケーションを図るには、自分の考えが正しく相手に伝わるように発信し、相手の話を正しく受け止める力が必要である。

アンケート結果の分析より、生徒が身に付けたいと希望している力は、「話すこと」であるが、英語で表現することに自信がなく、英語を話すことができないという生徒が多いことが分かった。そこでまず、「読むこと」「聞くこと」「話すこと」「書くこと」の4技能の基礎をしっかりと定着させ、「話すこと」の力を付けるための基本となる、英語で表現する力を付けることに重点を置いて、授業の工夫改善を行った。

## ア 4技能の基礎・基本を定着させるための工夫

### (7) 「読むこと」

教科書をパターン別に繰り返し読み、英語を発することや英語のイントネーションに慣れさせる。

- 1文を区切って一斉に読む。→1文ごとに一斉に読む。→ペアになって1文ごとに交互に読む。(対話の場面では役割ごとに) →CDまたはALTの発音を聞いて読む。
- CDとともに一斉に読む。
- 内容を考えながら、CDを参考に感情を込めて読む。
- ワークシートを参考に意味を考えながら読む。

(イ) 「聞くこと」

発信された英語を聞きとる力を付けさせる。

- 教科書本文の CD を聞かせ、聞き取れた単語を発表させる。
- 他の人の意見や発表を聞く。(授業始めの英会話、文型練習後の発表など)
- インタビューゲームで、相手の話す英語を聞き取らせる。
- A L T の話す事柄の概要を聞き取らせる。

(ロ) 「書くこと」

基本的な英語の文を使って、自分の考えを英語で表現させる。

- 英語表現に必要な語彙力を増やすため、単語練習を毎日の課題とし、単語テストで定着度を確認した。また、A L T との活動に単語ゲームを取り入れ、生徒の意欲を高めた。
- 教科書の Task を活用し、オリジナルの文を作成させた。
- A L T に日本の文化を絵と英文で伝えさせた。

(ハ) 「話すこと」

自分の思ったことを英語で発信し、相手の伝えたいことを受信させる。

- 授業の始めに簡単な英会話を行った。
- 新出文型を使った英文を発表させた。(未来形、現在完了形など)
- インタビューゲームで、自分の伝えたいことや相手の伝えたいことを正しく送信・受信させた。

(ニ) その他

- 新出文型の用法が分かりやすいように、板書の工夫をした。
- コミュニケーションを図りやすくするため、活動だけでなく日常的に予習・宿題の確認や単語テストの採点などもペアで行わせた。
- 生徒の授業への意欲を高めるため、評価カードを活用した。

イ 「話すこと」の力を付けるための授業改善

アンケートの分析結果より、「話すこと」の力を付けるには、まず生徒が間違いを気にせず英語で自分の考えていることを表現する力を付けることが大切であると考えた。そこで、次のような事柄を授業に取り入れた。

- (ア) 「読むこと」の力を付けるため、ペアリーディングの際、ペアリーダーを決め、教え合いながら読ませた。
- (イ) 自分で考えた英語文を発表するピクチャーテリング活動を習慣付けた。
  - 絵や写真を見て、感じたことを英語で言う。→ペアで確認し、発表する。
  - 絵や写真を見せ、思い付いた単語を発表させる。→短い英文で表現させる。→ストーリーを考えて発表させる。
- (ロ) 話すために必要な、オリジナルの英文表現ができるようにワークシートの工夫をした。
  - 新出文型を活用しやすいようにワークシートを工夫した。
  - 英語で表現する習慣を付けさせるため、週 1 回「BUN TORE」ワークシートを宿題とした。教師・A L T がチェックをし、授業でオリジナルの英文を紹介したり、聞き取りの材料にしたりして活用した。
  - 和英辞典を活用し、分からない単語は辞書を使って調べ、オリジナルの文を作

成することにチャレンジさせた。

#### ウ 生徒の変容・分析

12月に中学3年生に再度アンケートを取り、生徒の英語学習に対する意識と取組の変容を分析した。

## 2 成果と課題

### (1) アンケート実施・分析の成果と課題

- それぞれの学校の児童生徒の現状を把握することができ、中学校での授業改善の指針を明確にすることができた。また、中学校では、生徒が求めている英語力を付けるための手段について、具体的に方向性を考えることができた。
- 小学校・高等学校とのつながりを考慮した中学校での取組について、分析結果を基に授業改善に取り組み、今後もより有意義なコミュニケーション能力の育成を図っていく必要がある。

### (2) 小学校・中学校・高等学校との連携の成果と課題

- それぞれの学校の研究授業を行い、互いが参加し合うことで、各学校での児童・生徒達の実態が分かり、児童・生徒の英語への関心を直接知ることができた。また、研究協議で各学校の取組を知り、自校の課題を明確に確認することができた。
- 次の学校種につなげるために、それぞれの学校で教えておかなければならないことを考えるのに良い契機となった。
- 児童・生徒の発達に応じて、適切な英語力が身に付くように、今後もそれぞれの学校が連携をとっていく必要がある。
- 今後も小・中・高の協議会を定期的にもち、情報交換をしながら、それぞれの活動の改善に取り組んでいくと、より良い効果が期待される。

### (3) 「話すこと」を伸ばすための学習内容の工夫・改善の成果と課題

#### ア 4技能の基礎・基本を定着させるための工夫

- 教科書の本文を読む際、ペアリーダーを決めて音読練習をし、互いが教え合いながら音読をすることができた。
- パターンを変えながら音読を繰り返すことで、文の意味を意識しながら読む生徒が増えてきた。
- ALTに授業だけでなく給食や休憩時間を利用して、積極的に話しかけ、ALTの話すことを一生懸命に自分たちで聞きとろうとする姿が見られた。
- ピクチャーテリング（絵や写真を見て英語で表現する活動）の際、メモを取りながら、他の人の発表を聞き取ることができた。
- 紹介された「BUN TORE」の英文を聞き取り、英文の内容を共有することができた。
- 毎時間目標点を決めて単語テストを実施した結果、テストの点が向上することに達成感を感じる生徒が増え、英語表現をする際、語彙が豊かになってきた。
- 中学校の1・2年生では「BUN TORE」を週1回行った。例文を写すのが精いっぱいだった生徒が、回を重ねるうちに、自分の作った英文で表現できるようにな

ってきた。

- 間違いを気にせず、少しずつ自分の言葉で話そうとする様子が見られるようになった。
- 外国語活動や英語は苦手だが、A L Tにジェスチャーを交えながら、積極的に話し掛ける児童生徒が増えてきた。
- それぞれの項目において、より個に応じた工夫改善をしていく必要がある。
- 英語の基礎・基本の定着を確認する方法を検討していく必要がある。

#### イ 「話すこと」の力を付けるための授業改善の成果と課題

- ペアリーダーを決めたことで、互いが役割意識を持って本文読みに取り組むことができた。また、教え合うことでリーダーの意識も向上した。
- 絵や写真を見て、自分の言葉で表現しようという姿勢が見られ、さらに独自のストーリーを作ることに関心をもつ生徒が増えてきた。また、回を重ねるごとに、難しい文を作ることや、聞き手に伝わりやすい英文で表現する生徒も増えてきた。さらに、受け身や現在完了形など既習の文型を駆使するようになった。英語の間違いは必要性に応じ口頭で簡単に指摘し、英文の独創性やストーリー性、発表の態度を賞賛したことで、英語が苦手な生徒も自分の言葉で発表しようと熱心に取り組むことができた。
- ピクチャーテリングの活動について、「楽しかった。」と答えた生徒が多数いた。「自分の思っていることを英語で表現できたことがうれしかった。」「いろいろな発想の英文を聞くことができて、勉強になった。」「いろいろな文を考えるのが好きになる。」などの感想が多くあり、英文を作ることへの意識が高まってきた。
- ピクチャーテリングの活動で自分のプラスになったこととして、「英文を作る力が付いてきた。」「思ったことを英語で表現できるようになった。」などの感想が多数あった。少数ではあるが、「テストの英作文の問題を解くことができた。」という生徒もいた。
- 辞書を活用したことで、英語で表現することに意欲的に取り組む生徒も見られた。知らない単語を調べて活用することができ、英文の幅が広がった。また、間違えることに対する不安が減った。
- 辞書を使って「新しい単語を知ることができた」「知らない単語や英文が分かった。」という感想が多数あり、語彙が増え活用の幅が広がった。
- ワークシートを活用することで、新出文型を使った英文を自分で考えることができた。
- 「BUN TORE」によって、自分の言葉で英文を書こうとする生徒が増えてきた。英文の正誤より、オリジナル性をポイントにした点が間違いに対する生徒の恐れを軽減し、書くことへの意欲・関心を高めたと思われる。また、授業で生徒の英文を紹介することで、生徒の関心も高まった。
- 評価カードを活用することで、生徒自身も単語テストの得点や、授業で頑張ったことを振り返ることができ、次時への関心をもたせることができた。
- 4技能の基礎・基本を、個に応じてしっかりと定着させていかなければならない。
- 英語の表現力を付けるため、生徒が関心をもって取り組めるような絵や写真、

ワークシートを工夫する必要がある。

- 英語で表現する活動は継続的に行っていく必要がある。また、内容については、生徒のその時の実態に合わせて、場面設定をしていかなければならない。
- 英語の表現力を付けることに重点を置いて取り組んできたが、「話すこと」につながる受信力を付ける授業改善について、今後さらに研究していかなければならない。

### 3 効果のあった取組事例

英語の表現力を付け、生徒が英語への自信をもつことができるようにするため、次のような取組を行った。

中学校3年生は、授業の始めに絵や写真を見て英語で表現するピクチャーテリングの活動を行った。生徒が自信をもって取り組めるように、最初は思いついた単語を、次に短い英文を、さらにストーリー性をもたせたオリジナルの文を作って発表させた。和英辞典を活用したことで、生徒の関心も高まり、自信が付いたようである。

中学校1・2年生は、英語で表現する習慣を付けるため、「BUN TORE」と名付けたワークシートを用いて言語活動を行った。内容は、生徒の実態やその時期の実情に合わせて決めた。新しいALTへ津島を紹介する英文を書かせたり、自己紹介をさせたり、友達紹介をさせたりした。

どちらの活動も、間違いは口頭で指摘するだけにとどめたため、生徒は自信をもって表現することに慣れてきた。回を重ねるにつれ、生徒自身が正しく伝えようと考え、間違えないようにしようとする意識の変容が見られた。